

〔豊前志七〕上毛郡○郷四、村七十三、中略

重春云、上毛を、今カウグと唱ふは、音便に崩れたるなり、或人が所藏せる正安四年の田地沽渡證文には、下毛をシモツミケと書けり、然れば、上毛をも其頃まではカムツミケと正しく唱へりし事著し、扱上毛、下毛と郡を、上下に分ちたるは、稍後世の事にて、往昔は、美毛郡と云ひたりけむ、そは上毛、下毛の郡界を流る、河を、景行天皇紀に御木川とあるにて知らる、總べて上下前後の名、郡國にあるは、後に別ちたるものにて、豊前豊後は、本豊國なるを前後に分ち、上野下野は、本、毛野國なるを、上下に分てる類皆同じ、猶美毛の名義は、下毛郡大江社の下にて云はむ。

或記云、細川家より御引渡の高、上毛郡、三萬五百七十石八斗一升六合一勺一才、

〔續日本紀十三〕天平十二年九月己酉、大將軍東人等言、豊前國○中略上毛郡擬大領紀宇麻呂等三人、共謀斬賊徒首四級、

〔大内家壁書〕從山口於御分國中行程日數事○中略

豊前國○中略上毛郡五日、請文十五日○中略

寛正二年六月廿九日

備中守 奉 秀明○下略

下毛郡

〔豊前國志四下〕下毛郡

此郡の名義は、和名抄下毛郡、万葉集略解にも上毛郡に付ての名成べしとあり、己も同考也、此郡も米の味美土地なれば、上下御膳の名あるものならん、

〔豊前志八〕下毛郡郷七、村百、

和名鈔に、上毛を加牟豆美介と訓めれば、下毛には訓は無けれど、志毛豆美介と訓むべき事は推して察るべし、今はシモグと稱ふなり、正安四年の古文書には、シモツミケノコホリと書けり、其